



©Yuki Asada

孔雀の森が育む紅茶の畑

スリランカは紅茶の名産地。中でも南部のルフナ地方で収穫される紅茶は、渋みが少なくほのかな甘みを持つ。「でも、大規模なプランテーションでは化学肥料と農薬を使って栽培しているので、茶摘みを担う女性たちの手は荒れてしまうんです」とNGO団体パルシクの井上礼子代表理事は言う。

ルフナ地方のデニヤヤは、シンハラージャ森林保護区にほど近い紅茶の町だ。森林保護区は地域の水源でもあるのだが、茶畑を広げるために少しずつ切り開かれていた。井上さんがたまたまデニヤヤを訪れたとき、現地の小規模紅茶農家から「有機栽培紅茶を作りたい」と相談され、取り組みが始まった。

とはいえ、切り替えは簡単ではなかつ

た。まず、農薬を使わないから雑草が生える。山の斜面にある茶畑の下草を手で引き抜くのは、大変な労働だ。また、長年、化学肥料に頼ってきた土は栄養分が少ない。そこで、牛を育てて自分たちで堆肥を作ることにした。国のシンボル・孔雀がすむ森をこれ以上切り開かないよう、自主的な取り組みも進めている。

堆肥を作り、手作業で草を取り、コシヨウや果樹も所々に植えた茶畑。時がたつうちに、虫や鳥などの生き物が増え始め、豊かな土地になった。当初、25世帯で始めた有機栽培も、今は約100世帯が参加し、希望者はさらに増えている。有機認証が得られるまで、農法転換から3年が必要だが、地元農家の継続にける気持ちは強い。



収穫したてはほんのり草の香りがするルフナ茶。スリランカ国内でも人気

★スリランカのアールグレイ紅茶を2人にプレゼント！
→詳細は38ページへ

★アールグレイ紅茶をはじめとするさまざまなフェアトレード商品は、特定非営利活動法人PARCICが運営するサイトなどで購入できる。
<http://parmache.com/>

